



Title	歌
Author(s)	川田, 順
Citation	懷徳. 1935, 13, p. 53-53
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88937
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

天台嶺上石花香。碧映水明山紫鄉。却有太湖當背濶。孤帆點白領瀟湘。
鷗點碧漣如畫開。清明天氣倚樓台。雲鬟七十餘峰影。盡映琶湖鏡上來。

法隆寺

川 田 順

東 院

夢殿へますぐに廣きこの道の日のうらうらに陽炎かげろひすなり

いにしへの飛鳥あすかびと人らの踏みにけむこの土の上に陽炎かげろひの立つ

庭の上に陽炎かげろひの燃え微かにて人居らぬかも夢殿かみどの晝

春日はるび照らふ白埴土しらはにつちの庭の上にしかとすわれる八角圓堂

夢殿のぼは上るに低き石の段きた蜂ひとつ居て春の日の照り

夢殿祕佛三首

吾が眼もて見むたまゆらのおごろきを想ひつつぞ寄るそのみ佛に
たまゆらの驚異おどろき過ぎてわれにかへれば眼にしづかなるこれの御佛
くちびるにものの幽かそかに動ける陰翳かげこのみ佛は笑みませるなり

(歌集「立秋」より)